

ましては、たつた一つ佛教を信じて居つたと云ふ記事があります、即ち佗鉢と云ふ可汗の時に支那に攻め込んで、北齊の國から惠琳といふ僧侶を連れに歸つて、其僧侶の勧めに依て、寺を一つ建立したと云ふ記事が見えて居りますが、それが其後引續いて發達したと云ふやうなことは一向書いてないし、また他の事情から考へて見ましても到底盛んであつたとは思はれませぬ、其の後開元年間には同じ突厥に默棘連可汗と云ふのがありまして、支那の眞似をして佛教を入れやうとした、所が其の臣下に噉欲谷と云ふ人があつて、佛教は人を弱くして仕舞ふものがある、さういふものを入れては國の破滅であるからといふので之を拒むで入れなかつた、即ち佛教に對して排斥の態度を執つたものであります、直ぐ其の後に、同じ土地に據つたウイグル族が俄に他の部族と異つて佛教を輸入したとは思へないのでありますし、又俄に佛教が入らねばならぬ事情もなかつたやうに思はれます、却りて摩尼教は當時交通發達の事情に伴ふて其の教線を擴張して來て、遂に彼等の間に入ることになつたものであります。それで北の方に居ります時分には、前に其の地方に居つた民族と同じやうに信じなかつた、所が彼等が西に移つて落ちついた高昌の地方は、昔から有名な佛教の行はれた國でありまして、支那にも此の地方から教典を持つて來たといふやうなことが澤山見えて居ります、そこで自然新來のウイグルの民族も從前の摩尼教を信ずるものゝ外に、亦た佛教をも信ずるものがあるに至つた次第と存じます、然るに唐の方では丁度、天寶の初め頃から西域との交通が疎になりまして、チベット人種などが勢力を振つて西方諸國と支那との間を斷つて仕舞ひましたから、其の地方の事情を知ることが出來ないで、爲めに唐書などにも開元の末、天寶の初め頃以後は西域の記事は殆んどありませぬ、從がつて高昌に移つて後のウイグルの事情も唐代の記録によつては全く分りませぬ、況んや其の宗教などについて記して居